

科目名	社会調査実習1			ナンバリング	SOC251	授業形態	実習
対象学年	3年	開講時期	前期	科目分類	選択	単位数	1単位
代表教員	菊池真弓	担当教員	菅野昌史				

授業の概要	1年次で学んだ「社会調査の基礎」を実際に経験し学習する。いわき市および双葉郡の被災地域などをフィールドに調査の企画、地域に関する基礎分析、調査票調査および聞き取り調査の実施、結果の分析、報告書の作成まで、1年を通じて学生とスタッフが協力してすすめることを目標とする。具体的には、「東日本大震災と復興」(プロジェクトの9年目)、「いわきニュータウンのまちづくり」、「いわき市の子育てサポート」などをテーマに調査を実施する予定である。
到達目標	1.社会調査実習のテーマ・目的について理解し、問題意識をまとめることができる。 2.仮説の設定の仕方を理解し、グループ別の問題意識に応じた仮説を作成することができる。 3.調査実査およびデータの扱いについての注意事項を理解し、説明することができる。 4.調査票の印刷・整理、封入などの準備作業を行うことができる。
学習のアドバイス (勉強方法、履修に必要な予備知識など)	本実習は、社会調査士資格のG科目となるため、3年次までに資格認定A～G科目をすべて履修していることが望ましい(「社会調査の基礎」、「調査の設計と方法」、「社会データ分析」、「質的調査の方法」)。また、「社会調査実習2」も続けて受講すること(2だけの受講および1の単位を取得できなかった場合は受講できない)。
ディプロマポリシーとの 関連	【教養学部 地域教養学科のディプロマポリシー】
	<input type="radio"/> 1. 専攻分野それぞれの基礎的な知識を確実に身につけ、それらを活用して基本的な問題を解決することができる。
	<input type="radio"/> 2. 専攻分野それぞれの基本的スキルを、地域社会に貢献するために活用することができる。
	<input type="radio"/> 3. 自分の意見や考えを説明し、他者と協調して積極的にコミュニケーションをとることができる。
	<input type="radio"/> 4. 広い視野と論理的・批判的思考力を身につけ、困難な課題や予測不能な事態に直面しても適切に対処することができる。
	<input type="radio"/> 5. 社会の一員としての自覚を持ち、社会生活の場において、地域を支える社会人・職業人としてふさわしい関心・意欲・態度を示すことができる。

標準的な到達レベル(合格ライン)の目安	理想的な到達レベルの目安
1.個別の関心テーマ・調査対象・問題意識を箇条書きにまとめることができる。 2.テーマ・問題意識に関する先行研究を読み、レポートにまとめることができる。 3.グループ別の問題意識に応じた仮説・質問文を作成することができる。 4.グループ内での役割分担に基づき、調査結果の報告などに参画している。	1.個別の関心テーマ・調査対象・問題意識を文章化して、調査計画が作成できる。 2.テーマ・問題意識に関する先行研究を読み、レポートにまとめ、かつ内容が優れている。 3.グループ別の問題意識に応じた仮説・質問文を作成して、実査につなげることができる。 4.グループ内での役割分担に基づき、調査結果の報告などをして、かつ内容が優れている。

評価方法	成績評価観点						評価割合
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	
定期試験(中間・期末試験)							
小テスト・授業内レポート	○	○	○				30%
宿題・授業外レポート	○	○	○				30%
授業態度・授業への参加			○	○			20%
プレゼンテーション	○	○	○	○	○		20%

課題、評価のフィードバック	1.毎回の質問や感想などについては、授業内にコメントする。 2.授業内課題、報告レポートなどについては、コメントを加えて返却する。
---------------	--

	回次	テーマ	授業内容	備考
授業計画	第1回	社会調査実習とは(ガイダンス)	1年間の実習の流れについて理解し、個別・グループ学習の年間スケジュールに基づき実行することができる。	
	第2回	これまでの調査の概況報告	先行調査として実施してきた地域研究・ヒアリング調査の概況を理解し、これまでの先行調査の全体的な傾向を説明することができる。	
	第3回	今年度の調査テーマの設定、問題意識	今年度の社会調査実習のテーマ設定・目的・問題意識について理解し、個別のテーマ・問題意識をまとめることができる。	
	第4回	地域概況の整理	調査地域の概況を整理し、レポートにまとめることができる。	
	第5回	先行研究レポートの提出	グループのテーマに関する個別の先行研究レポートを提出することができる。	
	第6回	問題意識の整理、グループ作成	グループを形成し、グループ別のテーマおよび問題意識について討議・整理することができる。	
	第7回	仮説の設定	仮説の設定の仕方を理解し、グループ別の問題意識に応じた仮説を作成することができる。	
	第8回	仮説、質問文の作成①—グループ別の質問文を作成	質問文の作成の仕方を理解し、グループ仮説を証明するための質問文を作成することができる。	
	第9回	仮説、質問文の作成②—グループ別の仮説・質問文の見直し	グループミーティングを行い、グループ仮説および質問文の見直しを行うことができる。	
	第10回	調査票案の検討①	実習全体の調査票案①を検討し、作成することができる。	
	第11回	調査票案の検討②	実習全体の調査票案②を検討し、作成することができる。	
	第12回	サンプリング作業	サンプリング作業、調査対象者リストの整理・入力することができる。	
	第13回	調査実査に向けて	調査実査およびデータの扱いについての注意事項が理解し、説明することができる。	
	第14回	調査票の配布、回収作業	調査票の印刷・整理、封入などの準備作業を行うことができる。	
	第15回	調査票回収、チェック作業	調査票の回収、ナンバーリング、開封などの作業を行うことができる。	
	試験	試験は実施しない。		
授業の進め方	①調査テーマ設定をして、問題意識を整理する。②先行研究レポートを提出する。③グループ別に話し合った結果をレポートに整理・提出する。④実査を行い、それらの結果をグループ別に報告する。			
授業外学習の指示	【予習】配布資料等を熟読し、疑問点を明らかにしておくこと(90分)。【復習】個人課題やグループ課題などについて、配布プリント等を復習しながら、理解できなかったところについてはさらに調べること(90分)。 (授業外学習時間: 毎週 180 分)			

教科書	教科書は使用しない。適宜、プリントを配布する。
参考書	適宜、授業内で紹介する。
参考URLなど	1.「いわき明星大学現代社会学科ブログ」 http://imugensya.blogspot.jp/ 2.「いわき明星大学社会調査実習室」 http://www2.iwakimu.ac.jp/~imusocio/
その他	①初回の授業には、必ず出席すること(理由なく欠席した場合には、履修できないこともあるので注意する)。②e-ポートフォリオ「manab@IMU」を利用して、グループプロジェクトを実施したり、レポート課題の提出を行ってまいります。

ルーブリック「社会調査実習1」

評価規準 項目／観点		レベル高 ← 評価基準 → レベル低		
		レベル3（模範的、理想的）	レベル2（標準、合格）	レベル1（要改善、不合格）
1	調査対象への関心	調査対象に対する関心を持ち、主体的にテーマを掘り下げて調査計画を立て、それを実行している。	調査対象に対する関心を持ち、教員のアドバイスも参考にテーマを掘り下げて調査計画を立て、それを実行している。	調査対象に対する関心がなく、調査を実行することができない。
2	調査の各段階における課題	調査プロセスの各段階で行われる各課題（先行研究のまとめ、調査の実査、など）を提出し、かつ内容が優れている。	調査プロセスの各段階で行われる各課題（先行研究のまとめ、調査の実査、など）を提出している。	調査プロセスの各段階で行われる各課題（先行研究のまとめ、調査の実査、など）をせず、提出していない。
3	グループへの貢献	グループ内での役割分担の作業をこなすだけでなく、グループ全体の作業フォローも行っている。	グループ内での役割分担に基づき、定められた作業をまとめる。	グループ内での役割分担に基づき、定められた作業をまとめる。
4	調査結果のプレゼンテーション	調査結果で得られた内容について、グループとして報告し、かつ内容が優れている。	調査結果で得られた内容について、グループとして報告することに参画している。	調査結果で得られた内容について、グループとして報告することに貢献できていない。
5				
6				
7				